



# 園だより



令和5年1月号  
キッドワールドサード保育園  
園長 遠藤 靖子



## あけましておめでとうございます



令和5年が始まりました！皆様、新年はどのように迎えられましたか？ご家族でのんびりと、親戚が集まって楽しく、お友だちと一緒に賑やかに……。どのご家庭も素敵なお休みを過ごされていることと思います。

さて、今年は「うさぎ年」ですね。子どもたちと一緒に、うさぎに負けないくらい跳んだり跳ねたりしながら元気一杯に過ごしていきたいと思います！

今年もどうぞ、よろしく願い致します。

### 行事予定

10日(火) 身体計測  
19日(木) 健康診断  
23日(月) お弁当日

※発表会ごっこは、2月25日(土)を  
予定しています！

### 1月のお弁当日は・・・

## 23日(月)

食べきれる量のお弁当と、食具を持たせて  
ください。飲み物、おやつは園で準備いたし  
ます。



### お願いします！

- 仕事の都合などで、その日の連絡先がいつもと違う場合は、必ずお知らせください。緊急連絡の際につながらない時は、多くの方に園から連絡をし、ご迷惑をおかけすることになってしまいます。必ずつながる連絡先をお知らせくださいますよう、ご協力をお願い致します。
- インフルエンザが流行する恐れがあります。インフルエンザと診断された場合は「出席停止」の期間がありますのでご注意ください。詳しくは、「入園のしおり（重要事項説明書）」へ記載していますのでご確認ください。
- 持ち物への記名について  
持ち帰りの袋に入れる際、入れ間違ふことがあり、ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。確認が不十分であったと、反省しております。  
皆様に1点お願いがございます。  
お子さんの持ち物への記名の際、大きく書いていただくと、とてもありがたいのです。タグに小さく記名されている物は、職員が読み取りにくく、目を凝らして確認することが多々あります。出来るだけ、大きく書いていただけると助かります。  
宜しく願い致します。

# 子どもの発達としつけ

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

例年正月を迎えて、子どもたちがおじいちゃんおばあちゃんを含めて沢山のひとと過ごす機会が多くなると、そこで、子どものしつけのことが、話題になることが多くなります。おじいちゃんおばあちゃんにとっては、自分たちの行っていた昔の「しつけ」の経験がありますし、叔父さん叔母さんにしてみれば、それぞれの家庭の「しつけ」の考え方がありますので、話は微妙に食い違って、時には意見がぶつかったりすることもあるようです。

そこで、この機会に「子どものしつけ」について基本的なことを考えてみたいと思います。

一般的に「しつけ」というのは、子どもに日常生活での行儀作法や生活慣習を身につけさせることをいい、主に家庭の中で行う初期の教育をさしています。つまり、しつけは社会生活に適応するために望ましい生活慣習を身につけさせることとなりますので、乳幼児期においては、特に基本的な生活慣習のしつけということが中心になります。そして、成長するにしたがって家庭、学校、社会などの場における行動の仕方へとその内容は拡大していきます。ここでのしつけの目標については、子どもたちを社会生活の秩序を守り生活を向上させていくことのできる社会人に育てるということとなります。また、しつけを効果的に行うためには一人一人の子どもの発達の状況に応じた適切な方法をとることが必要です。そのことを少し丁寧に見ていきたいと思います。

0歳では、しつけの土台作りとして安心感を与えることが大切です。0歳の赤ちゃんは、まだ言葉で自分の意思を十分に伝えることはできませんので、怒ったり、注意したりしても効果はありません。まだ「褒められている」とか「叱られている」とかという区別ができなく理解もできないのです。「抱っこする」とか「撫でる」などのスキンシップで「自分は大切にされている」とか「自分の存在を大切に感じてもらっている」とかという気持ちが子どもたちの中に育まれます。そのことが親子の信頼関係を育むことになり、赤ちゃんに安心感を与えることになるのです。



1歳から2歳では、ただ叱るだけではなく子どもをしっかり受け止め、共感しながら言い聞かせることが大切です。この時期は、子どもたちに自我が芽生え、好奇心旺盛になり物を投げたり、急に走り出したりと回りの大人がひやひやするような行動も増えてきます。言葉も発達してきますが、まだまだ理解が追いつかない状態ですので、危険な事をしたときにはただ指摘するだけではなく、どうすればよいかを意識できるように分かり易く教えることが大切です。そのため、「子どものしたことを言葉にし、何をしたのかを理解できるようにする」「子どもがしたかった気持ちに共感する」「叱るのではなく言い聞かせる」ようにします。



2歳から3歳では、回りの大人がお手本を見せるようにします。この時期子どもたちは、イヤイヤ期の真っ只中ですので、自我が発達し自分の考えや思いが強くなるのですがそれをうまく言語化できなかつたり、どうしていいかわからなくなつたりして癇癪を起こすこともよくあります。また、友達と仲良く遊ぶのもまだ難しく、オモチャの取り合いになつたり、手が出てしまつたりすることもあります。そのようなときには、叱つたり注意したりするよりもお手本を見せてあげることが大切です。オモチャを片付けたり、「一緒に遊ぼう」と声をかけたり、「貸してもらってもいい」と聞いてみたり、「ごめんね」と謝まつたりと周りの大人たちの行動をお手本として真似をすることで、正しいふるまいを学んでいくことができるのです。



4歳以降では、言葉で言い聞かせ、「どうすればよかったのか」ということを考えさせることが大切です。この期の子どもはルールや他人の気持ちの理解もできるようになり、自分の意見を言葉にすることも少しずつ上手になってきます。そのため、因果関係や理由を説明する言葉のしつけができるようになります。この時に大切になるのが、大人がくどくどと言葉で説明しすぎず子どもが自分で考えられるように「ぼくにこう言われてお友達はどう思ったかな」「あの時どうすればよかったんだろう」などと質問しながら話しかけていくことです。そうすると子どもは他人の立場に立って考えたり、正しい行動を考えたりすることができるようになります。



今回は、具体的なしつけの方法について詳しく述べることができなかつたので、次回には、上手な子どものしつけ方とそのポイントなどについて考えていきたいと思ひます。



「しつけ」については、どれが「正解」と言うわけではなく、各ご家庭によって、それぞれの考えがあるかと思ひます。ただ、私たち大人が意識しておきたいことは、「子どもにとっての一番身近なお手本である。」ということではないでしょうか。園での子どもたちは、よく家庭での会話を「ごっこ遊び」として再現してくれます。それは、ご家庭での「保育園ごっこ」と同じことでしょう。それだけ、子どもたちは、私たち大人をみて、まねをしながら多くの事を学び、成長しているということに他なりません。そのことをいつでも頭においておきたいものです。「子どもがあこがれる大人」になれるよう、子どもたちと一緒に成長していきたいですね。